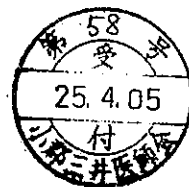


福岡医発第 62 号 (地)
平成 25 年 4 月 5 日



各 医 師 会 長 殿

福岡県医師会
会長 松田 峻一 良
(公 印 省 略)

第 7 回アジア救急医学カンファレンス (ACEM2013) について

今般、標記カンファレンスにつきまして、日本医師会を通じて開催案内及び周知依頼が別添のとおりありましたのでお知らせいたします。

標記カンファレンス (本年 10 月に東京国際フォーラムにて開催予定) は、第 41 回日本救急医学会総会・学術集会と連動して、日本救急医学会主催、日本臨床救急医学会共催により開催されるものです。また、石井正三 日本医師会常任理事が横田順一郎先生とともに副大会長に就任し、メインテーマとして「救急医学・医療と社会：学術的基盤、各国地域での実践と将来展望」が掲げられております。なお、参加対象は医師の他、看護師、救急隊員、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師など病院前救護や救急医療に携わる様々な職域の方となっております。

つきましては、貴会におかれましても、本件にご丁知いただくとともに貴会会員への周知方につきご高配賜りますようお願い申し上げます。

なお、ACEM2013 に参加した場合は、その参加証明書を日本医師会生涯教育制度の単位取得にご利用できますことを申し添えます。

記

△会 期 平成 25 年 10 月 23 日 (水) ～ 25 日 (金)
※会期前ワークショップ 平成 25 年 10 月 21 日 (月) ～ 22 日 (火)

△と こ ろ 東京国際フォーラム

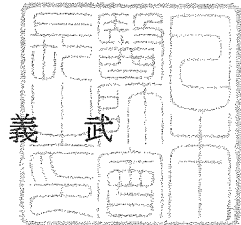
△問合せ先 第 7 回アジア救急医学会 運営事務局
TEL : 06-6221-5933
FAX : 06-6221-5938

平成 25 年 3 月 26 日

都道府県医師会長 殿

日本医師会長

横 倉



第 7 回アジア救急医学カンファレンス (ACEM2013) について

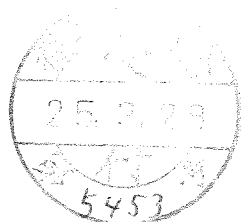
時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて今般、横田順一郎 日本臨床救急医学会代表理事より本職に対し、第 7 回アジア救急医学カンファレンス (ACEM2013) (本年 10 月に東京国際フォーラムにおいて開催予定) の案内及び周知等の依頼がありました。

ACEM2013 は、第 41 回日本救急医学会総会・学術集会と連動して、日本救急医学会主催、日本臨床救急医学会共催により開催されるものです。また、石井正三 本会常任理事が横田順一郎先生とともに副大会長に就任し、メインテーマとして「救急医学・医療と社会：学術的基盤、各国地域での実践と将来展望」を掲げ、医師の他、看護師等の病院前救護や救急医療に携わる職種も参加対象としております。

つきましては、貴会におかれましても、本件についてご了知いただくとともに、貴会管下関係医療機関や会員への周知方等につきご高配賜りますようお願い申し上げます。

追って、ACEM2013 に参加した場合は、その参加証明書を本会生涯教育制度の単位取得にご利用できますことを申し添えます。



平成 25 年 2 月 20 日

社団法人 日本医師会

会長 横倉義武 先生 御机下

第 7 回アジア救急医学カンファレンス (ACEM2013) のご案内と参加促進のお願い

第 41 回日本救急医学会総会・学術集会（会長；堀進悟慶応大学教授）と連動して、アジア救急医学会（ASEM）による学術集会（ACEM）を東京で開催いたします。主催は日本救急医学会ですが、わが日本臨床救急医学会が co-host として協力しています。とくに日本臨床救急医学会の設立趣旨と会員構成の特徴を生かし、医師、看護師、救急隊員、薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師など病院前救護や救急医療に携わる様々な職種の方が研究発表したり、参加したりできるよう企画しています。また、医師以外の職種の方が参加しやすいよう通訳設備を用意するなどの工夫もしております。

貴団体の会員が病院前救護や救急医療の研鑽のためにわれわれ日本臨床救急医学会で活動しております。したがって、貴団体に置かれましても、雑誌やホームページなどの情報媒体を通して ACEM 2013 の周知をお願いすると同時に、認定制度のクレジット取得など ACEM 2013 参加への勧誘策を企画いただくようお願い申し上げます。

なお、演題募集やプログラムについての詳細な情報はホームページ*をご覧ください。

* : <http://www2.convention.co.jp/acem2013/index.html>

記

会議名：第 7 回アジア救急医学カンファレンス (ACEM 2013)

会期：2013 年 10 月 23 日～25 日

21-22 日にプレコンgresワークショップあり

会場：東京国際フォーラム

多職種が参加しやすいよう工夫している点：

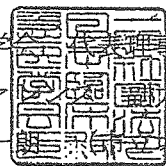
- 【英語⇒日本語】の同時通訳
- コメディカル向け 1 日参加券の設定 (12,000 円)
- 救急に関する幅広いテーマを企画
- 関連団体の認定制度クレジット (申請中)

以上

一般社団法人 日本臨床救急医学会 代表理事

第 7 回アジア救急医学会カンファ

横田順一 (聖隷聖院)



The 7th Asian Conference on Emergency Medicine

第7回アジア救急医学会



メインテーマ: 救急医学・医療と社会: 学術的基盤、各国地域での実践、と将来展望

主催: 一般社団法人日本救急医学会 (JAAM)

共催: 一般社団法人日本臨床救急医学会 (JSEM)

2nd Announcement 日本語版

2013 年 10 月 23 日 (水) ~ 25 日 (金)

会期前ワークショップ: 2013 年 10 月 21 日 (月) ~ 22 日 (火)

会場: 東京国際フォーラム

<http://www2.convention.co.jp/acem2013>

ご挨拶

アジア救急医学会 (ASEM) を代表して、2013 年 10 月 23 日～25 日に日本の首都、東京にて開催される第 7 回アジア救急医学会へ皆様を謹んでご招待申し上げます。

日本を始めアジア諸国において、高齢化等、社会や経済は変化し、また、医療科学はどんどん進歩を遂げている昨今、世界の救急医療は重要なターニングポイントに差し掛かっています。災害医療もまた、救急医療のもう一つの分野として、重要性を増しつつあります。東日本大震災の際のアジア諸国からの温かいご支援は、決して忘れることはできませんし、あの震災から得られた教訓を共有していくことの必要性を痛感しております。

救急医療に従事する救急医その他の医療専門家にとって、急性疾患、急性損傷、蘇生等に関する現在また将来の課題を解決するために、経験、知識、知恵等を、国境を越えて共有していくことが重要です。東京には、日本を代表する複数の先端救急医療センターならびに国内最大規模の消防署があり、本会議の組織委員会によって、会期中にこれらの施設を見学するツアーも企画されています。本会議が、アジア諸国のみならず全世界への情報発信という目的を担う一つの機会となりますことを心より祈念しております。

本会議は、東京駅のすぐ近く、都内中心地にある東京国際フォーラムにて開催されます。日本の首都東京は世界有数の大都市です。1603 年、将軍徳川家康によって開かれた時は江戸と呼ばれていました。その後栄え、18 世紀には 100 万都市となるまで急成長してきました。今や政治、経済、文化等の中心であり、かつ、情報発信地でもあります。幾度訪れてもまた人々を魅了する、エキサイティングな都市でもあります。伝統文化、エンターテインメントから最新のトレンド、技術まで、東京に無いものはありません。

ACEM2013 が、救急医療に関する最新の知見と情報を提供する場となり、参加者の皆様がそれらの情報を持ち帰られ、現場での臨床業務や研究に応用いただけることと確信しております。

ご参加を心よりお待ちしております。

一般社団法人日本救急医学会 (JAAM) 代表理事
昭和大学医学部 教授
有賀 徹

開催概要

会期

2013 年 10 月 23 日(水)～25 日(金)

会期前ワークショップ:2013 年 10 月 21 日(月)～22 日(火)

会場

東京国際フォーラム

会長

一般社団法人日本救急医学会(JAAM) 代表理事

昭和大学医学部 教授

有賀 徹

主催

一般社団法人日本救急医学会(JAAM)

共催

一般社団法人日本臨床救急医学会(JSEM)

同時期開催

第 41 回日本救急医学会総会・学術集会

2013 年 10 月 21 日(月)～23 日(水)

公用語

本会議の公用語は英語です。

一部セッションに、同時通訳が入ります。

運営事務局

第 7 回アジア救急医学会 運営事務局

日本コンベンションサービス株式会社 関西支社内

大阪市中央区今橋 4-4-7 京阪神淀屋橋ビル 2 階

TEL:06-6221-5933 FAX:06-6221-5938

E-mail:acem2013@convention.co.jp

URL: <http://www2.convention.co.jp/acem2013>

プログラム

主要演題

○ プレナリーセッション(全員出席セッション)

1. 2011 年東日本大震災、津波、原子力発電所事故からの教訓
2. 救急医療・医学の新たな展開－国際協力と各地域での応用
3. その他

○ 演題テーマ

- | | |
|---------------------------------------|---|
| 1. 心肺蘇生(CPR)の進歩 | 18. 小児救急 |
| 2. ガイドライン 2010 と CPR の質 | 19. 神経救急(脳卒中、脳梗塞、
その他 神経疾患等) |
| 3. 心肺蘇生とウツタインデータの活用 | 20. 心血管系救急(虚血性心疾患、
大動脈疾患、肺血栓塞栓症、その他) |
| 4. アジア諸国の救急医療体制 | 21. 腹部救急(急性腹症、腹部救急疾患、
その他) |
| 5. アジア諸国の ER 教育プログラム | 22. 呼吸器系救急 |
| 6. 救急部門(ED)の管理 | 23. 重症治療・集中治療 |
| 7. 救急医療・医学における研究と課題 | 24. 敗血症の治療 |
| 8. アジア諸国における救急看護師 | 25. 災害:自然災害 |
| 9. 救急部門における倫理的問題 | 26. 災害:人為災害－CBRN テロ、
事故を含む |
| 10. 救急医療におけるガイドラインと
クリニカルパス | 27. 災害:国際協力および民間組織と
軍との連携 |
| 11. 救急部門におけるトリアージ | 28. 救急医療と法医学:
オートプシーイメージング(AI) |
| 12. 初期輸液療法と輸血 | 29. 救急医療における協力・チーム体制 |
| 13. 外傷患者の診断と治療:新しい試み | |
| 14. 病院前における外傷ケアと
搬送中の蘇生・治療 | |
| 15. 中毒 | |
| 16. 感染症 | |
| 17. パンデミック・インフルエンザ:
いかに対応し協力体制を築くか | |

○ プレコンGRESワークショップ (学会会期前の教育コース)

1. MIMMS－災害現場における医療対応と医療支援
2. HMIMMS－病院における災害医療対応
3. ULSC(Winfocus)－救急と超音波診断
4. FCCS－集中治療と災害対応
5. EMS ディレクター養成のためのワークショップ
7. 緊急被ばく医療の基礎
8. 急性中毒の標準治療
9. 未定

演題登録

HP の演題登録システムよりご登録ください。

受付期間: 2012 年 11 月 20 日～2013 年 4 月 18 日

<http://www2.convention.co.jp/acem2013>

抄録受付概要

口演、ポスター発表のいずれかをお選びください。

第 7 回アジア救急医学会 学術委員会が、すべての抄録を査読いたします。

抄録の採否については、2013 年 7 月に、メールにてお知らせいたします。

発表者は、事前登録受付期間中に、参加登録をお願いいたします。

優れた発表につきましては、会期中に表彰を行います。

○ 抄録のカテゴリー

抄録提出時、該当するカテゴリーを下記から第 2 希望までお選びください。

- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1) 救急医療体制(EMS) | 17) 熱傷、電撃症、爆傷 |
| 2) 救急救命士・救急隊員(EMT) | 18) 感染症 |
| 3) 看護師と看護関連 | 19) 小児救急 |
| 4) 放射線技師 | 20) 神経救急 |
| 5) 薬剤師 | 21) 心血管系救急 |
| 6) 病院前救護 | 22) 腹部救急 |
| 7) 災害 | 23) 整形外科関連 |
| 8) 心肺蘇生(CPR) | 24) 呼吸器救急 |
| 9) 救急医療とトレーニング | 25) 重症治療(クリティカルケア) |
| 10) 救急医療・医学と研究 | 26) ショック |
| 11) 救急医療におけるガイドライン | 27) 敗血症(セプシス) |
| 12) 救急部門におけるトリアージ | 28) 法医学 |
| 13) 救急部門の管理 | 29) 倫理的問題 |
| 14) 外傷 | 30) その他(救急とチーム医療、他職種) |
| 15) 初期輸液療法と輸血 | 31) 臨床検査技師 |
| 16) 中毒 | |

抄録の体裁

1. 英語でご執筆ください。
2. 一般的な省略形を用い、それ以外の場合は括弧に入れてください。また、初出時には省略しない形で記載ください。薬剤は一般名を使用してください。数値については、単語ではなく数字をご使用ください。
3. タイトルは大文字でご記載ください。
4. 抄録には、導入・背景の目的、方法、結果、結論を含めてください。(スペースを含む 1,600 文字、約 220 ワード)

参加登録

HP より事前参加登録をお願いいたします。

事前参加登録期間:2013 年 3 月 25 日～2013 年 9 月 19 日

9 月 20 日以降は、当日登録をご利用ください。

参加登録費

★ 第 7 回アジア救急医学会(10/23-25) 参加登録費

カテゴリー	事前参加登録 2013 年 9 月 19 日まで	当日参加登録 2013 年 9 月 20 日以降
医師	35,000 円	45,000 円
コメディカル ^{*1} 及び 低所得国 ^{*2} の医師	25,000 円	35,000 円
コメディカル向け 1 日参加券	12,000 円	
学生	20,000 円	25,000 円
同伴者 ^{*3}	15,000 円	

★ 第 41 回日本救急医学会総会・学術集会および第 7 回アジア救急医学会(10/21-25) 参加登録費

カテゴリー	事前参加登録 2013 年 9 月 19 日まで	当日参加登録 2013 年 9 月 20 日以降
医師	48,000 円	58,000 円
コメディカル ^{*1} 及び 低所得国 ^{*2} の医師	28,000 円	38,000 円

★ プレコンGRESワークショップ(10/21-22) 参加費

カテゴリー	事前参加登録 2013 年 9 月 19 日まで	当日参加登録 2013 年 9 月 20 日以降
プレコンGRESワークショップ ^{*4}	10,000 円～75,000 円 コースにより異なる	-

*1 医師はこのカテゴリーではご登録いただけません。

直属上長の署名のある公式な証明書を登録受付にファックスまたはメール添付にて送付ください。

*2 低所得国(2011 年世界銀行データに基づく)

アフガニスタン	コンゴ民主共和国	キルギス共和国	ニジェール
バングラデシュ	エリトリア	リベリア	ルワンダ
ベニン	エチオピア	マダガスカル	シエラレオネ
ブルキナファソ	ガンビア	マラウイ	ソマリア
ブルンジ	ギニア	マリ	タジキスタン
カンボジア	ギニアビサウ	モーリタニア	タンザニア
中央アフリカ共和国	ハイチ	モザンビーク	トーゴ
チャド	ケニヤ	ミャンマー	ウガンダ
コモロ	北朝鮮	ネパール	ジンバブエ

*3 同伴者は、参加者の配偶者または家族に限ります。

同伴者は学会プログラムへはご参加いただけません。

*4 席数に限りがあるため、早めのご登録をお願いいたします。

参加登録費に含まれるもの

医師、コメディカル

- ・ 参加証、プログラム・抄録集、その他の関連資料一式およびコンgresバッグ
- ・ 展示会場ならびに全学会会場への入場
- ・ ウェルカム・レセプション(2013 年 10 月 22 日開催)
- ・ モーニング・セミナー、ランチオン・セミナー

同伴者

- ・ 参加証、コンgresバッグ
- ・ 展示会場への入場(学会会場への入場は不可)
- ・ ウェルカム・レセプション(2013 年 10 月 22 日開催)

*10 月 24 日開催の Gala Dinner(懇親会)は、希望者のみの参加となります。

参加登録費支払

参加登録費の支払は日本円となります。

- ・ クレジットカード(アメリカンエクスプレス、Visa、マスターカード、ダイナースクラブ、JCB)
- ・ 銀行振込(電子振込のみ)

オンライン登録システムの最終画面で、振込銀行口座情報をご確認いただけます。

また、オンライン登録終了後、メールにて自動送信されます。

*銀行振込は登録後 10 日以内にお願いいたします。

*振込にかかる手数料はすべて参加者負担でお願いいたします。

銀行振込の際、下記の情報の記載、入力が必要です。

■国内振込

送金書の送金者欄に参加者氏名を記載してください。

上記の情報を記載できなかった場合、登録受付にご連絡ください。迅速かつ正確な登録作業のため、銀行振込書のコピーをメールまたは FAX にて送付してください。

確認書・領収書

登録ならびに支払完了後、登録システム上より確認書・領収書の印刷が可能となります。会場受付に確認書をお持ちいただき、参加証、資料一式、コンgresバッグ等のお受け取りをお願いいたします。

キャンセルについて

キャンセルについては、書面で登録受付にご提出ください。

2013 年 7 月 22 日まで 参加登録費の 50%を払い戻し

2013 年 7 月 23 日以降 払い戻しはありません

第 7 回アジア救急医学会 登録デスク

日本コンベンションサービス株式会社

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-2 興信ビル

TEL:03-3508-1251 FAX:03-5283-5952

E-mail:reg-acem2013@convention.co.jp